

科目名	医療事務(医科)ⅡA							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高田ゆかり			
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	診療所において医療事務として勤務			
対象学科・学年	診療情報管理士科2年							
授業概要	DPCは診断群分類に基づく急性期入院医療における診療報酬包括支払制度であり、この授業では病名や治療内容に応じて分類された診断群分類に基づき入院医療費を計算する方法及びレセプト作成について学び、知識習得を目指す。							
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					DPCの概要、制度について理解し、説明することができる		
		○				病名および治療内容から正しい診断群分類を決定することができる		
		○				診断群分類より包括評価部分の点数算定ができる		
		○				出来高算定部分と合わせ、DPCレセプトを作成することができる		
テキスト・教材 参考図書	DPC点数表、診療報酬点数表、サポートブック							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	出来高レセプト作成(外来・入院)				予習不要、復習を必ずすること		
	2	DPCの概要・制度について				予習不要、復習を必ずすること		
	3	DPC請求までの流れ				予習不要、復習を必ずすること		
	4	診断群分類の決定				予習不要、復習を必ずすること		
	5	包括評価部分の算定方法				予習不要、復習を必ずすること		
	6	包括評価部分の算定方法				予習不要、復習を必ずすること		
	7	包括評価部分の算定方法				予習不要、復習を必ずすること		
	8	包括評価部分の算定方法、レセプト作成				予習不要、復習を必ずすること		
	9	包括評価部分の算定方法、レセプト作成				予習不要、復習を必ずすること		
	10	カルテ→点数算定(出来高・包括)→レセプト				予習不要、復習を必ずすること		
	11	カルテ→点数算定(出来高・包括)→レセプト				予習不要、復習を必ずすること		
	12	カルテ→点数算定(出来高・包括)→レセプト				予習不要、復習を必ずすること		
	13	診断群分類の変更、再入院の取扱い				予習不要、復習を必ずすること		
	14	出来高算定と包括算定での点数差異について				予習不要、復習を必ずすること		
15	DPC総まとめ				予習不要、復習を必ずすること			
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)授業態度・意欲以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	◎		○		80%	
	確認テスト	◎	◎		○		20%	
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	コンピュータ概論ⅡA						
科目名(英)	computer Introduction						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	植木 浩二郎		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	診療情報管理士科 2年						
授業概要	ITパスポート試験を受験することを基本とし、その課程で習得できる知識を院内業務及び問題解決手法として発揮できる人材を育成する。また、診療情報管理士認定試験の受験対策として必要な知識も身に付けることができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					コンピュータを使用した効率的な業務改善を行うことができる。	
		○				ITパスポート試験範囲を網羅した知識を身に付け、検定試験合格を目指す。	
		○				問題解決手法を理解し、実際の業務での問題解決の糸口を見つけることができる。	
		○				コンピュータの専門用語を理解しシステム導入や院内システム管理を行う知識を有する。	
テキスト・教材 参考図書	よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	システム開発技術			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	システム開発のプロ説について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	テスト項目の詳細について、テスト指標について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	ソフトウェア開発管理技術 ソフトウェア開発手法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	プロジェクトマネジメントについて			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	サービスマネジメントについて			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	システム監査			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	基礎理論 離散数学 奇数返還			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	アルゴリズムとプログラミング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	プログラミング言語			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	コンピュータシステム構成要素について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	ハードウェアについて 入出力デバイスおよび各種媒体			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	システム構成要素 情報システムの処理形態			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	稼働率および信頼性についての向上方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	ソフトウェアの説明および種類 OSについて			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	定期試験の評価 演習問題の評価および提出物・ノートの評価点 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	◎	◎				10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は試験を受験できない						

科目名	一般教養Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	木村浩昌		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	診療情報管理士科 2年						
授業概要	プレゼンテーションの演習を行う。 グループでターゲットを決めて実在病院の公開情報及び現地取材を通して行う。 効果的なプレゼンテーションの技能だけでなく、将来の病院実務で通用する技能を磨く						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					先輩のプレゼンテーション成果物を見ながら概要を学ぶ。	
		○				プレゼンテーションを実施し、その効果的な手法を体得する。	
	○					他のグループのプレゼンテーションを通じて自己の糧とする。	
テキスト・教材 参考図書	プロジェクター、PC、パワーポイント、その他						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	プレゼンテーションのポイント学ぶ			ターゲット病院の調査		
	2	先輩のプレゼンテーションを検討する			発表の検討・資料の作成		
	3	グループによるプレゼンテーションの実施1回目			発表の検討・資料の作成		
	4	グループによるプレゼンテーションの実施1回目			発表の検討・資料の作成		
	5	グループによるプレゼンテーションの実施1回目			発表の検討・資料の作成		
	6	グループによるプレゼンテーションの実施1回目					
	7	今までの演習の反省			ターゲット病院の調査		
	8	更に効果的なプレゼンテーションをするには			発表の検討・資料の作成		
	9	グループによるプレゼンテーションの実施2回目			発表の検討・資料の作成		
	10	グループによるプレゼンテーションの実施2回目			発表の検討・資料の作成		
	11	グループによるプレゼンテーションの実施2回目			発表の検討・資料の作成		
	12	今までの演習の反省					
	13	グループによるプレゼンテーションの実施3回目			発表の検討・資料の作成		
	14	グループによるプレゼンテーションの実施3回目			発表の検討・資料の作成		
15	グループによるプレゼンテーションの実施3回目						
評価方法	プレゼンテーション演習の結果を毎回(A-C)評価し、その総合点で成績とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	○	◎		◎		100%
履修上の注意	授業の出席が10回以上ない場合は単位を取得できない						

科目名	Windows演習(Excel応用①)						
科目名(英)	Windows						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	田丸 順子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	診療情報管理士科2年						
授業概要	正確で早いタイピングを身につける Excel2013を用いてビジネス社会における通常の表計算処理を行うことができると同時に、パソコン、表計算、 ビジネス図表に関する実践的な技能を習得する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			手元を見ずに、正確で早いタイピングができる。	
		○				高度な関数を使って処理ができる。	
		○				データの多角的な分析や、複合グラフを作成できる。	
		○				複数のワークシートやブックの連携や統合・集計ができる。	
	○				処理の自動化を行うマクロを作成することができる。		
テキスト・教材 参考図書	Excel2013クイックマスター 応用編 (ウイネット) Excel表計算処理技能認定試験 1・2級問題集 (サーティファイ)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	タイピング練習、入力補助機能(1)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	2	タイピング練習、入力補助機能(2)、関数(1)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	3	タイピング練習、関数(2)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	4	タイピング練習、関数(3)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	5	タイピング練習、関数(4)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	6	タイピング練習、関数(5)、グラフ機能(1)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	7	タイピング練習、グラフ機能(2)、複数ワークシートの集計(1)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	8	タイピング練習、複数ワークシートの集計(2)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	9	タイピング練習、データベース(1)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	10	タイピング練習、データベース(2)、データの分析(1)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	11	タイピング練習、データの分析(2)			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	12	タイピング練習、処理の自動化、貸出リストの作成			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	13	タイピング練習、貸出リストの分析、最適化分析と処理の自動化			テキストの該当範囲に目を通しておくこと		
	14	タイピング練習、総合学習問題			学習した内容を復習しておくこと		
15	最終課題作成			授業内容に係る課題を作成するので、復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で最終課題を実施する。(2)復習用に配布した課題は解答後提出する。(3)平常点として出席や忘れ物状況、授業への参加意欲を成績評価に加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	最終課題	○	◎	○			60%
	配布課題提出	○	◎	○			20%
	平常点				◎		20%
履修上の注意	個人のデータは各自のUSBに保存するので、毎回必ず持参すること。						

科目名	接遇演習ⅡA								
科目名(英)									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	榎本 美和子				
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	診療情報管理士科 2年								
授業概要	様々な患者様の対応と医師や看護師とのコミュニケーション力を身に付ける。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技: ○ ※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	しっせ	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
		○				正しい敬語を使えるようになる。			
				○		病院で働くという責任感をもつ。			
				○		同僚や患者とのコミュニケーション力を身に付ける。			
テキスト・教材 参考図書	実践 ビジネスマナー (株)ウイネット								
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示					
	1	授業ガイダンス							
	2	病院で働くとは？			病院で働くとは何かを考えておくこと				
	3	話の仕方、聞き方			授業の復習				
	4	敬語と言葉使い①			授業の復習				
	5	敬語と言葉使い②			授業の復習				
	6	謝罪の仕方			授業の復習				
	7	病院内での人間関係(医師、看護師とのコミュニケーション)			授業の復習				
	8	電話対応			授業の復習				
	9	ビジネス文書、メール、Fax			授業の復習				
	10	受付対応①			授業の復習				
	11	受付対応②			授業の復習				
	12	受付対応③			授業の復習				
	13	受付対応④			授業の復習				
	14	お手洗い、その他への案内			授業の復習				
15	前期まとめ			前期の復習					
評価方法				言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験								
	小テスト								
	宿題・レポート								
	発表・作品								
履修上の注意	配慮のある態度を心がけ、がんばりましょう。								

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	植木 浩二郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	診療情報管理士科 2年						
授業概要	「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢」、また“志”について考える。夢を言語化してビジョンにし、強い信念で、自分以外の人や社会・公のことが視野に入ると“志”に近づくという事を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		自ら考える、気づく力の獲得	
				○		伝える力の醸成。自己発言力の育成	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII 志の教育						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと“志”			振返りレポートの作成		
	2	自分を取り巻く環境を知る			振返りレポートの作成		
	3	自己を知る			振返りレポートの作成		
	4	伝える力を学ぶ I			振返りレポートの作成		
	5	伝える力を学ぶ II			振返りレポートの作成		
	6	先人の志に学ぶ			振返りレポートの作成		
	7	成功者の考え方に学ぶ			振返りレポートの作成		
	8	自らの志を言語化する			振返りレポートの作成		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートを8回実施する (2)最後の授業で発表する。 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとなる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成・発表				◎		100%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位未取得となる						

科目名	分類基礎演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	高田ゆかり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	診療情報管理士科2年						
授業概要	診療情報管理士に求められる正確なコーディング法の基礎の習得を目指す。コーディングとはカルテに記載されている病名や診療行為を確認し、国際基準によって符号化(コード化)していく作業であり、膨大な数の病名や診療行為を客観的に分類できるため、統計・資料の作成や診療報酬請求事務などに役立つ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					ICD-10 1巻・3巻の構造、使用される記号・符号の意味及びひ傷病名の構成を理解し使用方法を習得する	
		○				疾病コードの特異的なものを中心に、留意点を理解し正しいコードをつけることができる	
		○				退院時要約(サマリー)の読み取りができる	
テキスト・教材 参考図書	診療情報管理士IV(専門8章～12章)、ICD-10 1巻・3巻						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	疾病分類法の意義と目的、ICD-10で使用される記号・符号の意味を知る				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	二重分類				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	新生物の分類				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	分娩・出産の分類				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	筋、骨・外傷の分類				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	外因コード				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	サマリー演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	総合演習				これまでのコーディング演習を復習しておくこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)授業態度・意欲以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		◎		80%
	小テスト	◎	◎		◎		20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	医療管理各論 I・II						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	廣瀬 智子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	診療情報管理士科2年						
授業概要	病院を的確に医事・運営していくうえで、必要な経営管理と医療管理について理解する。また、医療保険・介護保険の基本的な制度について理解し、正しく診療情報の管理ができるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					病院における経営管理・医療管理について学び、病院経営の概要を挙げることができる。	
	○					医療制度・医療関連法規について学び、各制度のポイントを説明することができる。	
				○		医療について意欲的に考える姿勢をもつことができる。	
テキスト・教材参考図書	教科書: 診療情報管理Ⅲ 専門・1章～7章 第8版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	病院の経営管理－病院経営管理、プロセスとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	組織と機能、管理と組織			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	財務・経営管理、人事労務管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	施設管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	医療の質管理－医療管理、診療部門、看護部門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	医療技術・診療協力・メディカルスタッフ部門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	教育研究・診療情報管理部門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	スタッフ・ライン機能事務部門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	施設・機器維持管理部門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	労働安全・環境衛生管理・ハウスキーピング部門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	チーム医療			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	医療管理各論 I のまとめ・小テスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	医療保険制度－医療保険の種類と保険給付・保険外給付			確認テストを実施するので復習		
	14	わが国の診療報酬制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	保険診療と医療費の支払いの仕組み			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	16	診療報酬の請求について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17	わが国の診断群分類－ケースミックス区分法と診断群分類			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	18	わが国の診断群分類誕生の背景			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	DPC			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	20	DPCと包括評価			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21	介護保険制度の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	22	医療管理各論の II まとめ・小テスト			確認テストを実施するので復習		
23	医療管理各論 I・II の総まとめ						
評価方法	(1)医療ニュースについての発表を実施する。(2)授業の中で小テストの実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					80%
	小テスト	○					10%
	発表・作品				○		10%
履修上の注意	出席が15回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						



科目名	医療管理総論(1章)・医療管理各論Ⅲ(4章)						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	廣瀬 智子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	診療情報管理士科 2年						
授業概要	医療制度・医療関連法規について理解し、また医療安全・医療の質・情報管理について理解し、正しく診療情報の管理ができるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					病院における経営管理・医療管理について学び、病院経営の概要を挙げることができる。	
	○					医療制度・医療関連法規について学び、各制度のポイントを説明することができる。	
				○		医療について意欲的に考える姿勢をもつことができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 診療情報管理Ⅲ 専門・1章～7章 第8版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	安全管理－医療安全概論			教科書の該当範囲を事前に読む		
	2	医療におけるリスクマネジメント			教科書の該当範囲を事前に読む		
	3	ヒューマンエラー			教科書の該当範囲を事前に読む		
	4	医療事故と医療過誤、医事紛争			教科書の該当範囲を事前に読む		
	5	医療の質管理－医療の質と保証			教科書の該当範囲を事前に読む		
	6	チーム医療における診療情報共有			教科書の該当範囲を事前に読む		
	7	医療の質マネジメントシステム			教科書の該当範囲を事前に読む		
	8	医療の質の評価と公表			教科書の該当範囲を事前に読む		
	9	データ活用－医療マーケティング			教科書の該当範囲を事前に読む		
	10	データの活用			教科書の該当範囲を事前に読む		
	11	データ(電子カルテ・オーダー・医事会計)			教科書の該当範囲を事前に読む		
	12	診療情報管理データと医事会計データ			教科書の該当範囲を事前に読む		
	13	医療管理各論Ⅲのまとめ・小テスト			確認テストを実施するので復習		
	14	医療資源			教科書の該当範囲を事前に読む		
	15	日本の医療制度			教科書の該当範囲を事前に読む		
	16	医療の需要と供給			教科書の該当範囲を事前に読む		
	17	地域医療			教科書の該当範囲を事前に読む		
	18	医療関連の法規定			教科書の該当範囲を事前に読む		
	19	－医療法・介護保険法			教科書の該当範囲を事前に読む		
	20	－健康増進法・感染症法・医薬品医療機器法			教科書の該当範囲を事前に読む		
	21	－個人情報保護法			教科書の該当範囲を事前に読む		
	22	医療管理総論のまとめ・小テスト			確認テストを実施するので復習		
23	医療管理総論・医療管理各論Ⅲのまとめ						
評価方法	(1)医療ニュースについての発表を実施 (2)小テストの実施(2回) (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					80%
	小テスト	○					10%
	発表・作品				○		10%
履修上の注意	出席が15回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	臨床医学各論Ⅳ・Ⅶ/医学・医療用語						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	片伯部・上平・萩尾		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	診療情報管理士科2年						
授業概要	脳と神経系の疾患、眼、耳、「精神および行動」の障害など感覚系疾病、周産期疾患、について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診断記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識の習得を目的とする(7章・10章)人体構造・機能、症状、診断名、医療行為などの必要な専門用語を習得し診療記録を適切に理解できること(12章)						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					精神・脳神経・感覚器系等の疾病について、特徴、症状・所見、診断法、治療法を学び適切な病歴診断名につなげる知識を習得する	
	○					周産期系の疾病について、特徴、症状・所見、診断法、治療法を学び適切な病歴診断名につなげる知識を習得する	
	○					人体構造・機能、症状、診断名、医療行為などの必要な専門用語を習得する	
テキスト・教材 参考図書	診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～2	精神・脳神経・感覚器系等の疾患—精神および行動の障害			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3～5	精神・脳神経・感覚器系等の疾患—神経系の疾患			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6～10	精神・脳神経・感覚器系等の疾患—眼および付属器の疾患			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11～18	周産期系の疾患—妊娠、分娩および産褥			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19～20	周産期系の疾患—周産期に発生した病態			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21～30	医学・医療用語—医学用語			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業態度・意欲 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎		◎		100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

<b>科目名</b>	診療情報管理論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ／国際統計分類Ⅰ							
<b>科目名(英)</b>								
<b>単位数</b>	5単位	<b>時間数</b>	76時間	<b>担当者</b>	塩塚 康子			
<b>実施年度</b>	2019年度	<b>実施時期</b>	後期	<b>実務家教員担当科目</b>	○			
<b>対象学科・学年</b>	診療情報管理士科2年							
<b>授業概要</b>	診療情報管理を実施するための基礎として診療情報の重要性を理解し、診療情報を適切に取り扱い責任ある情報管理を行う能力を身につける(8章・9章・10章)わが国の人口動態統計の仕組みと意義を理解しICDの利用について理解する(11章)							
<b>授業形式</b>	講義:	○	演習:	○	実習:	○		
<b>学習目標(到達目標)</b>	<b>目標</b>							
	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他			
	○					診療情報管理の意義と役割、法令や諸規則を含め、診療情報の記録方法が機能的にどのような構成やルールを習得する		
	○					診療情報を実施する場で容易に惹き立て、応用可能な基礎知識を習得する		
	○					DPC業務や医師事務作業補助者業務、がん登録業務等について、実務者の視点から学習し知識を習得する		
○					人口動態統計に用いられる国際疾病分類(ICD)についての理解を深めDPC/PDPS制度における利用について知識を習得する			
<b>テキスト・教材参考図書</b>	診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編							
<b>授業計画</b>	回数	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	診療情報管理Ⅰ—診療情報管理の意義と役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	診療情報管理Ⅰ—診療情報管理の歴史			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3~7	診療情報管理Ⅰ—診療情報管理と法規法			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	診療情報管理Ⅰ—診療情報の記載			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	診療情報管理Ⅰ—診療記録の基本的な記載事項			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	診療情報管理Ⅰ—診療記録の種類			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	診療情報管理Ⅱ—診療情報管理士について			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	診療情報管理Ⅱ—診療情報管理士に求められる資質			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	診療情報管理Ⅱ—診療情報管理士の基本業務			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	診療情報管理Ⅱ—個人情報保護の視点からの保管管理			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	15	診療情報管理Ⅱ—紙カルテ運用における診療情報管理			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	16	診療情報管理Ⅱ—電子カルテ運用における診療情報管理			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	17	診療情報管理Ⅱ—電子カルテ運用における診療情報管理			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	18	診療情報管理Ⅱ—診療情報の提供に係る業務			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	19	診療情報管理Ⅱ—診療情報管理士による改善への取り組み			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	20	診療情報管理Ⅱ—診療情報管理士の活動組織			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	21	診療情報管理Ⅲ—DPCと診療情報管理士との関わり			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	22	診療情報管理Ⅲ—影響調査と診療情報管理士			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	23	診療情報管理Ⅲ—DPCと影響調査			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	24	診療情報管理Ⅲ—病院指標の公開と診療情報管理士			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	25	診療情報管理Ⅲ—データ精度と診療情報管理士			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	26	診療情報管理Ⅲ—DPCのデータ活用			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	27	診療情報管理Ⅲ—医師事務作業補助者の業務と体制			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	28	診療情報管理Ⅲ—医師事務作業補助者と診療情報管理士の関わり			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	29	診療情報管理Ⅲ—わが国のがん対策とがん登録			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	30	診療情報管理Ⅲ—レセプト情報・特定健診等情報データベースについて			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	31	国際統計分類Ⅰ—わが国の人口動態統計			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	32	国際統計分類Ⅰ—国際疾病分類(ICD)の歴史			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	33	国際統計分類Ⅰ—国際疾病分類(ICD)の現状			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	34	国際統計分類Ⅰ—国際疾病分類(ICD)の構造			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	35	国際統計分類Ⅰ—国際統計分類ファミリーに含まれる分類			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	36	国際統計分類Ⅰ—国際統計分類ファミリーの概念と構想			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	37	国際統計分類Ⅰ—原死因選択ルール			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	38	国際統計分類Ⅰ—主要病態のコーディングと再選択ルール			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	39	国際統計分類Ⅰ—診断群分類における国際疾病分類の利用			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	40	国際統計分類Ⅰ—ICDを用いるうえでの注意点			前回の復習および教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	<b>評価方法</b>	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業態度・意欲 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験		◎		◎		100%
		小テスト						
宿題・レポート 発表・作品								
<b>履修上の注意</b>	出席が15回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							